

英士朗「超楽しかった」



【男子102キ超級】スナッチで180キに成功しガッツポーズする村上 11パリ(共同)

ウェイト10位「毎年やりたい」

パリ五輪は10日、ウェイトリフティング男子102キ超級で、富山市出身の村上英士朗(29)「いちご」、滑川高OBはスナッチ180キ、ジャーク220キのトータル400キで10位だった。村上は初めての五輪の舞台に「超楽しかった。毎年やりたい」と充実感を漂わせた。

【10、13、19、21面に関連記事】



英士朗さんの15年間の競技人生で初めての五輪は本当に夢の舞台でした。国境を超えて観客も一体となり、試合というより「エンターテインメントショー」を見ている気持ちになりました。圧巻の舞台で、何より英士朗さんの試合を見ていた中で一番気合が入っていて、輝いて見えませんでした。それでは英士朗さんの試合後の言葉を伝えます。

■村上英士朗コメント

今まで競技が好きで、その延長線上にオリンピックがあると思っていましたが、多分誰よりもオリンピックに出場したい気持ちがあったんだなと思いました。斜に構えていました。

プラットホーム(試技する場所)の上にある五輪マークを見た時は自分がここに出られるんだと思って感激して、涙が出ました。試合前に涙を枯らすほど泣きました。多分事前に泣いていなかったら、試合中に泣いてしまっていたので、事前に出し切っておいてよかったです。それくらい気持ちが高まりました。

一言でいうと試合は「超楽しかった」です。ウェイトリフティングは他の競技と異なり、自分だけにスポットライトが当たる競技なので、全員が自分を見てくれていると思うと気合が入りました。

五輪マークに涙/足負傷で不安に

練習でも重い重量は触れず、五輪本番で記録を残せるか不安でした。「足首が悲鳴を上げて試合前にはがをしたらどうしよう」「風邪をひいたらどうしよう」「移動中にけがをしたらどうしよう」など試合の日まで感じたことのないくらい不安で押しつぶされそうでした。

試合で日本新記録は出せませんでした。1本1本死ぬ気で、今、自分ができる最大限は出し尽くしました。

今回の試合は歓声がすごくて、それがなかったら挙げられていなかったと思います。「応援の声が力に変わりました」とたぐさんのアシリートが言っていました。その気持ちを味わいました。

富山で応援してくださいました方々も動画で拝見しました。未明にもかかわらず、ありがとうございます。他にも富山県内企業の公式SNSでも応援してくださいありがとうございます。ありがとうございました。

4年後へ全力サポート

以前、5大会連続で五輪に出場した三宅宏美さんが「オリンピックの舞台は一度出たらやみつきになる」とおっしゃっていました。宏美さんは英士朗さんが所属する「いちご」でコーチを務めてくれています。

英士朗さんも4年後のロサンゼルス五輪を目指して頑張りたいと話しています。

余談ですが、ウェイトリフティング会場の隣が卓球の会場でした。英士朗さんの試合の日が卓球の女子決勝の日と重なりました。

勝の日と重なり、日本人の報道関係者も多かったです。

櫻井翔さんと遭遇

櫻井翔さんとたまたま遭遇し、「これから巨那の試合なんですか」と話したら、「どの競技の方?」と話が膨らみ、最終的には「タンク村上さんね。応援してる」と声を掛けていただきました。

応援グッズを大量に持っていたので、目立ったのだと思います。チームジャパソンとしての誇りを胸に頑張っていて、1人でも多くの方に結果で恩返しできるように一層精進します。